

「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>2020年度 (選抜区分：一般選抜 前期日程) 地域創生学群・地域創生学類 (科目名：小論文・集団討論)</p>
<p>出題の意図 (評価のポイント)</p>	<p>◆ 地域創生学群 前期日程 (小論文)</p> <p>1. 小論文における出題の背景と求める能力</p> <p>今年度もこれまでの試験と同様に、次の三つの点、すなわち(1)地域創生やまちづくりを考えるうえで重要な示唆を有する文章であること、(2)地域創生学群が学生に育てたいと考えている能力について関連する内容を有していること、(3)一般選抜であることを考慮し、一般的かつ平易な文章であることを出題文の選定基準とした。結果、山崎亮(2012)「コミュニティデザインの時代」(中公新書)を出題文とした。</p> <p>設問は、「以下の文章を読み、「新しい公共」という概念を筆者が「古くて新しい公共」と表現している理由について500字以上625字以内でまとめなさい」とした。</p> <p>設問の意図は、本文の内容をしっかりと把握する読解力を持っているか、また、その内容をきちんと論理立てて記述する能力を持っているかを見ることにある。加えて、正しい日本語を使うことができるかどうか、また一定の語彙力(漢字能力を含む)を有しているかどうかを評価のポイントとした。</p> <p>2. 解説</p> <p>解答の記述においては、『かつて多くの人が農村部に住んで「私」が集まり協力しながら「共」を成立させ生活していた時代から、多くの人が都市部で生活する時代となり「私」が繋がっていないので「共」が生まれず「公共」が生まれにくく、「官」がほとんどの「公」を担ってきたという変遷を踏まえ、今後、かつてのようにもう一度「私」をつなげて「共」をつくり、それを外部に開くことによって「公」をつくり出すことが必要である』、という筆者の考えをまとめることができているかが重要であった。</p> <p>設問文の論理展開は、序盤において概念整理を行い、中盤において出題内容に関する記述が歴史的背景や“余談”を挟みながら行われ、終盤でこれらを踏まえた筆者の問題意識が述べられている。本文全体を俯瞰したうえで、出題内容に特に関わる箇所を見つける読解力が求められるとともに、論理的かつ簡潔にまとめる力が求められるものである。</p> <p>解答では、言葉の概念整理を行ったうえで順序だてて解説を行い、的確に結論をまとめたものを一定数みることができた。そうした解答には高い評価を与えている。</p>

◆ 地域創生学群 前期日程（集団討論）

今年度の一般選抜における集団討論では、地域創生において重要となる特定のテーマについて、一つの立場から少人数で議論してもらい、続いて逆の立場から全体で討論してもらった。

出題のねらいとしては、与えられたテーマについて多様な視点から柔軟に考えることができるか、グループに主体的に関わり、自らの考えや見解を他者との議論を通じて深めていくことができるか、また限られた時間の中で議論を一つの方向に導くことができるか、ということを見定めることにあった。

入学後、「地域創生」の担い手として、地域の方々と有意義な協働を進めていくために必要なコミュニケーション能力と思考力、表現力が備わっているか、ということを経験した。